

小松市大倉岳高原スポーツ・レクリエーション施設（大倉岳高原スキー場）の 利活用に係るサウンディング型市場調査の結果概要について

令和7年6月30日

小松市大倉岳高原スポーツ・レクリエーション施設（大倉岳高原スキー場）の通年利活用や管理運営方法等について、幅広い民間事業者の皆様との対話を通じ、広くご意見やご提案をお聴きし、今後の管理運営方針の参考とすることを目的にサウンディング型市場調査を実施しています。

今回、民間事業者の皆様と個別対話を実施し、結果を取りまとめましたので、その概要を次のとおり公表します。

1. 実施概要

(1) 実施要領の公表

令和7年3月3日（月）

(2) 説明会・現地見学会

参加者なし

(3) 個別対話（サウンディング）

実施日：令和7年5月22日（木）

参加者：2者

2. 個別対話の主な内容（参加者からの提案等、順不同）

(1) 施設の維持管理・運営について

- ・リフトの更新や圧雪車の修繕など多額の経費が見込まれるものについては、10年先までの資金計画を作成し、段階的に行う必要がある
- ・管理運営費用としては市が行うものと指定管理者が行うものがあると思うが、収支について判断する際は合算して収支全体を確認する必要がある
- ・スキー場の設備は特殊なものが多いが、メーカー以外から調達して2～3割のコスト削減につなげることも可能である
- ・課題となっているロッジ（約40年経過）の建て替えについて、現在の機能（事務所、食堂・売店、レンタルスキーなど）を維持する形で提案することもできる

(2) 人員の確保について

- ・スタッフの高齢化は多くのスキー場が抱える問題であるが、リフト乗り場のゲート

- を自動化することで対応し、リフト乗車時の安全性を高めることができる
- ・特殊な資格である索道技術管理者の確保について、育成や新規雇用が難しい場合は民間人材を活用するという方法もある

(3) 通年利活用等について

- ・複数のスキー場を運営するノウハウやコンサルティング実績により、当施設の立地や地形、気象等の条件に合致する提案を複数用意することができる
- ・空港や新幹線駅から近い立地を活用し、インバウンドでは雪に触れることを目的とする方もいるため、造雪機を導入すれば通年で手軽な体験を提供できる
- ・降雪量の問題で営業日数が短くなることについても、造雪機により積雪を補うことができれば営業期間を長くできる
- ・圧雪機が入れない積雪量（20cm 程度）であっても、新雪を好む利用者向けやプレオープンという形で早期にオープンすることは可能ではないか

(4) キッズパークの整備について

- ・降雪量が少ないということを逆に考えると、交通アクセスが良いという風に捉えることができる
- ・キッズパークの客層として、祖父母と孫で遊びに来ていることも多くみられる
- ・キッズグレンデをキッズパークとし、その動線上やパーク内にベルトコンベアを設置すれば移動の負担が軽減され、利用者の増加が見込まれる
- ・近隣のスキー場では一里野高原がキッズパークを設置しているが、内容的にさらに充実したものにすれば北陸圏域をエリアとして誘客できる可能性がある
- ・ベルトコンベアはグリーンシーズンでも利用可能なため、通年利用においてもメリットがあるのではないか

3. 今後の予定

小松市大倉岳高原スポーツ・レクリエーション施設（大倉岳高原スキー場）の利活用について、本調査によりいただいたご意見やご提案も参考にしながら、引き続き検討を進めます。

なお、ご意見・ご提案の内容が必ずしも今後の政策に反映されるとは限りません。

（公表期間：上記公表の日から1年間）